

現代短歌分類辭典

第四十二卷

津 端 修 編 纂

津 端

修 編 纂

現代短歌分類辞典

第四十二卷

日本財団支援

笹川良一記念文庫

財団法人日本科学協会

現代短歌分類辞典

42

昭和五十二年七月十五日発行 定価、六〇〇円

著者発行
兼印刷者
津 端 修

東京都中野区上高田二丁目九の一六

発行所
津 端 修

T 164

振替 東京 六七三四一番
電話 三八七局八四二九番

目

次

(第四十二卷)

	歌数	頁数		歌数	頁数
あらはる	三	一	あらはれ出づーも	一	三
洗はーる	二	三	現れ出づる	六	三
あらはるーべき	一	〃	あらはれいでくる	二	〃
現はるる	一九	四	現れ出でーし	六	〃
洗はーるる	三	〇	洗はーれー出でーし	一	〇
あらはるるーごとき	一	二	現れ出でーて	七	〃
洗はーるるーごとき	三	〃	洗はーれー出でーて	一	〇
あらはるるーごとき	一	三	現はれ出でーぬ	四	〃
洗はーるるーごとき	一	〃	現れ出でーむ	一	〇
洗はーるるーごとし	一	〃	あらはれ出でよ	一	〃
現るるーなり	四	〃	あらはれーき	三	〃
現はれ (名詞)	三	三	あらはれ来ーたり	二	〇
同 (動詞)	〇	五	現れ来ーたる	〇	〃
洗はーれ	〇	五	現れきーたるーべく	一	〇

現れき―たれ―り
あらはれき―つつ
現はれ来―て
現はれ来―に―けり
あらはれ来―ぬ
あらはれき―ます
現はれ―消ゆる
あらはれく―らし
現はれくる
あらはれくる―も
現はれ来れ―ば
あらはれこ―ず―や
あらはれこ―ぬ
あらはれ―も―来よ
あらはれ―ざら―む
あらはれ―ざり―き
あらはれ―ざり―し

一 二 一 一 一 一 一 二 一 三 一 一 二 四 一 一

〃 吾 〃 〃 〃 〃 咒 〃 〃 〃 〃 咒 〃 〃 〃 咒 咒

現れ―し
洗は―れ―し
顯はれ―じ
あらはれ―しめ―し
あらはれ―しめ―ぬ
現れ―ず（終止形）
同（連用形）
現はれそめ―し
あらはれそめ―たり
あらはれそめ―て
あらはれそめ―ぬ
現はれ―た
洗は―れ―た
あらはれたつ―も
現はれ―たまは―む
あらはれ―たまひ―し
あらはれ―給ふ（終止形）

四 一 一 一 三 五 六 二 一 四 一 二 一 一 一 三 咒

〃 〃 〃 充 〃 充 〃 〃 吞 〃 突 〃 〃 〃 奎 三 吾

洗はーれーて

六

三三

あらはれはじむ

—

151

あらはれふりーく
 あらはれーまさーず
 あらはれーまさーぬ
 あらはれーまさーむ
 あらはれーまさーん
 現れー舞ふーや
 あらはれーみえくる
 あらはれー見えーし
 現れーむ (終止形)
 同 (連体形)
 洗はーれーむ
 あらはれーむーごとき
 現れーもー来よ
 洗はーれーもーせーぬ
 洗はーれーもーせーよ
 あらはれー燃ゆる
 あらはれゆけーば

一 一 一 一 三 一 一 三 七 二 一 一 一 一 三 一 一

一四 一四 一四 一四 一四 一四 一四 一四 一四 一四 一四 一四 一四 一四 一四 一四 一四

現れよ
 あらはれーよう
 あらはれる (終止形)
 同 (連体形)
 洗はーれる (終止形)
 同 (連体形)
 あらはれわたる (終止形)
 同 (連体形)
 洗はーれーゐーたる
 あらはれる
 あらはれるーも
 あらはれーをどる
 洗はーれーをらーむ
 現れをりーし
 現れをりーて
 あらはれをりーや
 現れをる

一 一 一 一 一 一 一 三 一 一 三 一 一 二 九 五 一 六

一四 一四 一四 一四 一四 一四 一四 一四 一四 一四 一四 一四 一四 一四 一四 一四 一四

あらはれーん (終止形)

同 (連体形)

洗はーん (終止形)

同 (連体形)

洗ひ (名詞)

同 (動詞)

荒び (名詞)

同 (動詞)

アラビヤ

洗ひ上ぐ

洗ひ上げ

洗ひ上げーし

洗ひ上げーたり

洗ひー上げーたる

洗ひあげーて

アラビアの海

亜刺比亞の国

一 三

洗ひ合ふ

一 三

二 "

洗ひいださーれーし

二 "

五 "

洗ひー得ーべくーば

一 "

一 三

あらひーえーざりーし

一 三

三 "

洗ひおきーし

二 "

一 五

洗ひ置きーたる

一 "

一 四

洗ひ置く

一 "

一 七

洗ひおけーる

一 "

一 三

洗ひ落し

二 "

一 "

洗ひおとしーたる

一 七

一 三

洗ひおとしーて

三 "

七 "

洗ひ落しーぬ

二 "

一 四

あらひおとす (終止形)

二 "

六 "

同 (連体形)

一 六

一 "

洗ひおとすーな

一 "

二 一 五

洗ひおとせーる

一 "

一 "

洗ひ大根

一 "

洗ひかねーたる
 洗ひ蕪
 洗髪
 荒びきたりーて
 洗ひ来ーて
 洗ひ衣
 洗ひきよめーぬ
 洗ひ浄めーられーし
 洗ひーくだる
 洗ひくーも
 荒らびーくるふ
 洗ひ呉るーれーば
 洗ひくれーたり
 洗ひくれーたる
 洗ひくれーましーぬ
 洗ひくれーます
 荒髯

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 二 八 四 一 三 一 一

一六 一六 一七 一七 一七 一七 一七 一七 一七 一七 一七 一七 一七 一七 一七 一七 一七

洗毛
 洗ひーけむ(終止形)
 あらひーけむ(連体形)
 洗ひーけり
 洗粉
 洗ひ来ーし
 洗ひ米
 洗ひさしーて
 洗ひささーれ
 洗ひささーれーし
 洗ひ晒し
 洗ひざらしーた
 洗ひざらはれ
 洗ひざらひ
 洗ひ去りーし
 あらひさりーたる
 洗ひ去る

二 一 三 一五 三 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一七 一七 一七 一七 一七 一七 一七 一七 一七 一七 一七 一七 一七 一七 一七 一七 一七

洗ひー去る

一

一六

洗ひ濯ぐ

一

一六

洗ひ去るーべし

一

〃

洗ひーぞーまをす

一

〃

洗ひ去れ

二

〃

洗ひそろへーる

一

〃

洗ひされーど

一

〃

荒褻

五

〃

洗ひーし

四

〃

洗ひ出されーぬ

一

一六

同

三

一四

荒びたつ(終止形)

一

〃

荒びーし

元

〃

同 (連体形)

二

〃

洗ひーしーごとく

一

一六

洗ひたつる

一

〃

洗ひ障子

一

〃

洗ひたて

二

一六

洗ひ汁

一

〃

洗ひ足袋

一

〃

あらひーすぎーにーけり

一

一七

洗ひーたまひーけむ

一

〃

洗ひすすぎ

二

〃

洗ひー給ひーし

一

〃

洗ひすすげーば

一

〃

洗ひーたまふ

二

〃

洗ひすてーし

一

〃

洗ひーたり

三

一五

洗砂

一

〃

荒びーたり

一

〃

洗堰

二

〃

荒びーたりーけむ

一

〃

荒びーそ

一

一八

荒びーたりーけれ

一

〃

荒びーぬ
 洗布
 洗場
 洗ひはじめーつ
 洗ひはじめーぬ
 荒びはてーたる
 洗張り
 洗張屋
 荒び吹きーつつ
 あらび吹く
 洗ひ干しーつつ
 洗ひ干しーて
 洗ひ干す
 洗ひ米(まい)
 洗ひーませーうーよ
 洗ひーます
 洗ひーませーな

一 二 一 一 二 一 一 一 一 一 二 一 一 一四 二 四

" " " " 三〇 " " " " " 二九 " " 二八 二七 二六

洗ひー奉らく
 洗ひーまつるーや
 洗ひーまるらする
 洗ひ水
 洗物
 洗ひ屋
 アラビヤ
 アラビヤ大陸
 アラビヤの海
 アラビヤの国
 あらびやのなだ
 アラビヤ丸
 洗ひやめーし
 洗ひやらーむ
 洗ひやりーつつ
 洗ひやりーながら
 洗ひやりーるーき

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 八 三 一五 三 一 一 一

" " " " 三五 " " " " 三四 " 三三 " " " " 三

あらひやる (終止形)	二	三六	洗ひるーつ	一	三九
同 (連体形)	一	〃	洗ひるーて	七	〃
洗ひやるーべき	一	〃	洗ひるーにーけり	一	三〇
洗ひやれーば	一	〃	洗ひる	六	〃
洗ひゆく (終止形)	一	〃	同	二	三二
同 (連体形)	三	三七	荒びる	一	三三
荒びゆく (終止形)	一	〃	あらひをはりーて	一	〃
同 (連体形)	三	〃	洗ひ終る	一	〃
洗ひ米 (よね)	三	〃	洗ひをへーし	三	〃
荒びより	一	三六	洗ひをへーて	五	〃
荒び寄る	一	〃	洗ひをり	三	二四
荒鱈	一	〃	洗ひをりーにーき	一	二七
あらひわすれーし	一	〃	洗ひをる	四	〃
洗ひ忘れーて	一	〃	洗ひをれーば	二	三八
洗ひるーき	二	三九	洗ふ (終止形)	三	三九
洗ひるーし	二	〃	同 (連体形)	四	二五
洗ひるーたり	一	〃	同 (係結び)	一〇	二六

在らふ

荒ぶ（終止形）

同（連体形）

あらぶき

アラブ軍師団

洗ふーごとく

新普請

アラブ少年

洗ふーぞ

荒淵

荒ぶーてふ

荒太縄

荒ぶーな

洗ふーなり

荒ぶーなり

荒ぶーなりーけり

あらふーなる

一

セ

一九

二

一

二

一

一

一

一

一

一

一

八

二

一

一

二九三

〃

二五四

二九五

二九六

〃

〃

〃

〃

二九七

〃

〃

〃

二九八

〃

二九九

〃

洗ふーなれども

荒船

荒船山

洗ふーの

洗吹雪

洗ふーべき

洗ふーべく

洗ふーべし

洗ふーも

同

洗ふーやも

洗ふーよ

アラブ四歳馬

アラフラ海

洗ふーらし

荒降り

荒ら降り雨

一

四

五

一

一

一

三

二

四

二

一

一

一

一

四

二

一

二九

〃

〃

〃

〃

〃

〃

三〇一

〃

〃

三〇二

三〇三

〃

〃

〃

三〇四

〃

荒ぶる (終止形)
 荒ぶる (連体形)
 同 (連体形)
 同 (連体形)
 あらぶる—なかれ
 あらぶれ—の
 荒ぶれ—ば
 アラブ少女
 洗へ
 あらへうふらへうと
 アラベスク
 洗へ—ど
 洗へ—ば
 濯へ—よ
 洗へ—り
 洗へ—る
 荒べ—る

一 三 哭 一 七 六 二 一 三 一 二 一 一 一 一 一 五 三

三〇 三六 〃 三四 三三 〃 〃 三二 〃 〃 〃 三〇 〃 〃 三〇九 〃 三四

洗へ—れ—ば
 荒ほこり
 荒骨
 荒法師
 粗彫
 新本
 新盆
 荒牧
 あら蒔
 新巻
 あらまき
 あらまく
 あらまく—に
 あらまし
 あら—まし (終止形)
 同 (連体形)
 あら—ましか—ば

五 四 三六 一六 一 三 一 二 四 二 一 一 六 六 一 一 三

三〇 三九 三五 〃 三四 〃 〃 〃 三三 〃 〃 三三 〃 〃 〃 三二 三〇

あらはる【動詞】〔顕る〕〔露る〕

漲りてゆく力はや地図の上に弧となり線となりてあらはる①

港口に立ちはだかれる貨物船の吃水線太く時にあらはる⑬

身の老いてよきかな瘦せし冬の日の山のすがたの我れに現る⑫

むかつねろ現ると見るやつぎつぎに浮びいでたり高山低山③

武蔵越え甲斐に入りゆく古き道眠したの路に細くあらはる⑭

目白台焼野となるにゆくりなや大いなる富士ましろく現る⑮

女の童幕を除くれば国宝の塔を讃へしわが歌あらはる⑯

木蓮を石矢のやうにおとす風折から園に鷺鳥あらはる⑰

椰子の木に旗はよぢれてなびきつやがて日の丸となりてあらはる⑱

山之路木立の奥にこちよき黒馬の立つ河原あらはる⑲

山之路屨気楼など及ばざるあてやかさもて港あらはる⑳

あらはる

谷 鼎

前 田 夕 暮

與 謝 野 寛

相 馬 御 風

窪 田 空 穂

窪 田 空 穂

窪 田 空 穂

與 謝 野 晶 子

松 田 常 憲

與 謝 野 晶 子

與 謝 野 晶 子